

ひとから真に求められる『心のケア』を考えます

# ベトレヘムの風

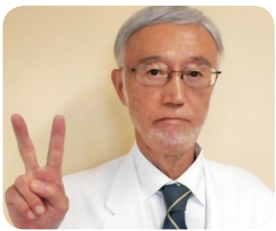
発行：ベトレヘムの園病院 隔月15日発行 編集：広報委員会  
 住所：東京都清瀬市梅園三丁目14番72号 ☎042-491-2525 URL: <http://www.betohp.com>



No.84

## 『晴耕雨読』 ～雨の日には論文を書きましょう～

院長 青木 信彦



私たちは毎日、なんとなくせわしく仕事をしています。

青木も病棟・外来そして院長業務でパタパタして、あっという間に午後5時になってしまうのです。時間厳守のベトレヘム病院ですので、5時過ぎると院長は率先して帰ってしまいます。

そんな中でも時間にゆとりがあると、『晴耕雨読』という大好きな言葉に従って、論文を書きます。論文書きは長年の習慣であり、趣味なのです。

なぜか論文を書いていると、時間の経つのを忘れてしまいます。(もちろん“本業”はしっかりとやっていますよ)

いま、「子どもの虐待」についての論文を執筆中です。

虐待というと、メディアでは「こんなひどい、許せない虐待があった」と報道しますが、青木の研究は、虐待をしていないのに虐待として犯罪者扱いをされている親御さんの救済です。

実は日本では子ども虐待として告発されている“えん罪被害”が多発しているのですが、知っている人はほんのわずかなのです。

もちろん、メディアではこんなことを報道すると虐待がますます増えてしまうという危惧からか、この問題は人目につくことはありません。

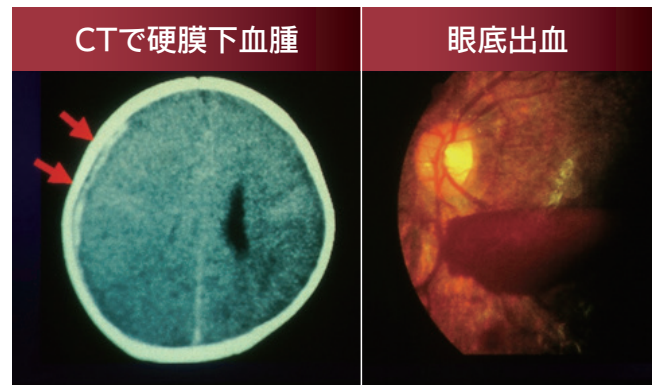
虐待研究のきっかけは、もうかれこれ30年も前に「日本の赤ちゃんに特有な頭蓋内出血」の論文を書いたことに始まります。この論文は脳神経外科の分野では国際的にもっとも有名なジャーナル (Journal of Neurosurgery) に掲載されました。「乳幼児型急性硬膜下血腫」という論文です。この疾患は生後6ヶ月から1才の男の子がお座りやつかまり立ちから転んで、タタミやマットに後頭部を打って痙攣を起こすのが特徴です。



ところが、いつの間にか日本では「乳幼児型急性硬膜下血腫」が「揺さぶられっ子症候群 (SBS)」と名付けられて、

虐待とされるようになってしまったのです。

こうなった原因ははっきりしています。むかし欧米では硬膜下血腫+眼底出血=虐待という自動的な診断があったのです。もちろん今はこんな単純な自動診断は通用しないのですが一部にまだ残っていて、その一つが日本なのです。



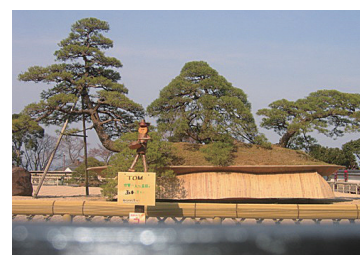
CTで硬膜下血腫があって、検査で眼底出血が見られると有無を言わずに子どもは親から引き離され、はてしない親子分離状態となります。親御さんはびっくりするやら怒るやらで、天地がひっくり返るような大騒ぎになるのです。日本では年間で100件以上の発生と推定されています。この問題の解決に青木の力は微力ですが、slow and steady で取り組んでいこうと論文を書いています。

さて、高齢とはなりませんが、頭の回転と早口ではまだまだ若者には負けません (と思うことにしています)。

今のうちにお世話になった社会への恩返しをしたいと思います

70才を過ぎて気の向くままに、一茶の俳句に習って一日を過ごしましょう：

「茶もつみぬ(本業) 松も作りぬ(趣味) 丘の家」.小林一茶



一茶の「丘の家」はこんな家でしょうか

## ベトレヘムの園病院 院内研究発表会

# 第17回 院内研究発表会



日時:平成29年10月19日(木) 13:30~15:35

恒例の院内研究発表会、各部署から日頃の積極的な取組の紹介があり、実りの多い時間となった。

### 1. 「地域における公益的な取組」への挑戦

～“いいのだけれども、だめ”な私たちの今を変える～

事務部 菊池 誠 協力:医療連携課医療相談室

「地域における公益的な取組」の活動意義と今後の課題を考察。広域連携事業「中間的就労」の活動実績と、新たに挑戦する取組についても報告。

### 2. 当院の過去5年で退院となった癌患者の緩和ケアの実態調査

看護部 ◎窪田由佳 保田しのぶ 遠藤かほる

協力:後藤佐恵子 増田千晴 須田加矢子

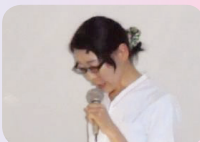
「尊厳を大切にしたい看取り」に力を入れ地域に根差した病院作りを模索するなか、当院の癌患者の症例を緩和ケア実態調査の結果にまとめ、報告した。

### 3. ～入院患者の表皮剥離に関する臨床的研究～

第二報 業務改善に伴う実態調査と効果

二階病棟 ◎市川夕子 遠藤かほる

昨年度の第一報では表皮剥離の多くは入浴を中心とする業務に関わって発生している事が明らかに。本年度は入浴業務を見直し改善した事により表皮剥離が減少、その成果を報告。



### 4. 「薬剤科における業務改善の試み」

薬剤科

◎平澤佑実彦 後藤佐恵子 小熊 梢

人員配置の変更に伴い試みた業務改善を継続的なものとする為に、業務改善までの手順を問題抽出、方法模索、業務実行、結果評価の4つに分けて考察。



### 5. 低栄養患者へのプロテイン付加による効果の検証

栄養科 廣瀬孝洋

栄養科における低栄養患者の早期発見と介入の取組として、プロテインを使用している患者5名の栄養状態の変化を検査値から検証し、報告した。

### 6. 当院栄養科職員の検便検査 変更前後の比較

◎大谷佐江子、安積和子、阿部 愛、古田百合子 (臨床検査科)

当院栄養科職員の検便検査施行のタイミングを変更した。変更後3年が経過したので、変更の妥当性を検証するため、比較検討を行った。

### 7. 「進行性核上性麻痺に対するシーティングの検討の報告」

リハビリテーション科 瀧口憲一郎

進行性核上性麻痺の進行により、姿勢保持が難しい患者にチルト型車椅子を導入。安全な摂食が可能な状態でのシーティングを検討、実施した結果を報告。



☆教育講演「死に方選びは、生き方探し」 院長:青木 信彦 公開健康講座でも好評を得た、院長講座の再演。高齢社会を生き抜く知恵と心構えをやさしく解説。

## 看護管理学会に参加して

保田しのぶ(1階病棟師長)

10月11日から看護管理学会参加のために札幌へ行って来ました。スタッフからは「旅行ですね」と言われ送り出されました。札幌での夜景は絶景で食事は美味しく、生まれて初めてエゾシカとラムのしゃぶしゃぶを食べましたが、とっても美味しかったです。もちろん食べ物だけを見つけたのではなく、学会の内容も学んできました。当院に必要なのはコーチング技術だと考えさせられ、また一番面白いと感じたのは、「働くアリと働かないアリの“ありよう”からみる個性と組織の存続」でした。アリは働くイメージがありますが、実際働いているアリは2～3割だそうです。後の7割は巣の中でゴロゴロしています。それは、存在最適進化といえます。

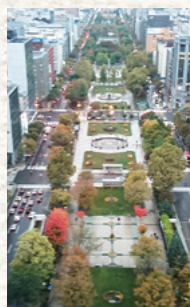
効率だけを求める組織は存在が継続しないのです。集団は個体ごとに役割があり、全体として機能を果たす「社会」を形成するものだというのです。社会の永続的な運営に個性が必要であるとし、働いていない様に見えるものも何かの役割を担っているのです。

私もスタッフも1人1人個性があり、どういう人なのかを改めて考える機会になりました。「個々を尊重し助け合える」「考える看護ケア」をスタッフと一緒に目指したいと思えます。

遠藤かほる(2階病棟師長)

先日の10月12日と13日の、日本看護学会看護管理学会集に参加するために11日より、北海道の札幌に行かせて頂きました。研修内容が、看護管理ということでしたので、全国の看護管理職者が多数集まりました。少子超高齢化社会を迎え、2025年度を見据えた社会保障制度改革についての講義内容が多数あり、もう本当に他人ごとではない…と切実に感じました。

研修後には、一緒に行った保田師長と札幌の藻岩山から宝石の様に輝く夜景を見て、何ともロマンチックな気分です。帰って参りました。心も胃袋も満たされる研修となりました。このような機会を頂き本当にありがとうございました。



# 2017・健康まつりを終えて



## 大和理恵(医療相談室)

で飲み物とお菓子を  
提供し、お祭り会場  
で購入されたお昼ご  
飯なども広げて頂き  
ながらゆったりとし  
た時間を過ごして頂  
けたのではないかと  
思っ



週間予報では「雨」  
と天気も心配でした  
が、晴れの特異日通  
りいい天気恵まれ、  
11月3日の「ふれあ  
いバザー」の一環と  
して「健康まつり」

も無事終わることが  
できました。本年も、  
健康相談の中で「血  
管年齢測定」を実施  
いたしました。判定ま  
でに時間を要し、お  
待たせしてしまいま  
したが、「年齢より若  
かった!!」と結果に  
微笑まれた方が多く  
いらっしゃいました。

そして今年初の取  
り組みとして、11月  
から実施を予定して  
いる「ベトカフェ」  
を、1階待合室を利  
用しプレオープンし  
ました。健康相談の  
他に、ホッと頂ける  
空間の中

ております。

今後も地域公益事  
業の一環として、「ベ  
トカフェ」を第2・  
4火曜日10:00  
～ 13:30、2F会  
議室で開催します。  
地域の皆さまにク  
ロイでいただける  
空間を提供してい  
きたいと思いま  
す。併せて健康相  
談や、リハビリ体  
操なども取り入れ  
ていきたいと思  
っていますので、  
足を運んでいただ  
けたら幸いです。

## リハビリテーション科 ふれあいバザー

リハビリテーション科  
では先日行われたふ  
れあいバザーで患者  
さんと共に作った作  
品を出品しました。

今回は前回好評だ  
ったアクセサリーに  
加えクリスマス関  
連の商品を沢山制作  
しました。その中  
でも今回一番人気  
だった松ぼっくりの  
ツリーはスタッフが  
集めた松

ぼっくりを煮沸し乾  
燥させたものを使  
用しました。そこ  
に、患者さんが思  
いに毛糸を巻きつ  
けました。毛色だ  
けでなく巻き付け  
方にも一点一点が  
患者さんの個性の  
現れた作品となり  
ました。



カレンダーは一年  
をかけてその月ご  
との絵を患者さん  
に描いて頂き作成  
しました。すでに  
来年に向けて画伯  
達の創作活動は始  
まっております。

当日は商品を作  
っていただいた患  
者さんにも販売ス  
タッフになってもら  
いバザーを盛り上  
げて頂きました。

また育休中のスタ  
ッフも遊びに来て  
、患者さんとの久  
しぶりの会話を楽  
しんでいました。

### ☆参加された患者さんの声☆

**Aさん**「楽しかったー。欲しい買  
い物が出来て満足。  
また行きたい。」

**Bさん**「売り子で久しぶりに大  
声を出せて楽しかった。」

**Cさん**「久しぶりの外出で色  
々なものを見られて  
楽しかったです。買  
いたかったパンも  
買えました。」

このほかにも沢  
山の楽しかったと  
いう感想を頂き  
ました。



売り場の隣には  
リハ科スタッフによ  
る無料健康相談  
コーナーを設け  
ました。来年も  
行いますので日  
常の健康のお悩  
みなど些細なこ  
でもお気軽に  
ご相談ください  
。また当日の様  
子はリハ科ホー  
ムページにも掲  
載されています  
のでぜひご覧  
ください。

# ひふの話

その  
37

市川 雅子(皮膚科医師)

## 陰部の皮膚病

「皮膚科で診てもらいたいけど恥ずかしい」「この症状は皮膚科でいいのか、他の科がいいのかわからない」そんな声が聞こえてくるのが陰部の皮膚トラブル。実にたくさんの病気があり、このスペースで全部を説明することはできませんが、よくある症状をいくつか説明します。

「かゆい時」。俗に“インキンタムシ”と呼ばれる白癬菌(水虫菌)による、或いはカンジダ菌といった皮膚に寄生するカビによるものや、脂漏性皮膚炎(湿疹)が代表的なものですが、そのほか、蒸れてかゆくなることもありますし、尿漏れやおりもの(帯下)が原因のこともあります。近年はウォシュレットの使い過ぎによるものもあります。ウォシュレットはせいぜい1日1回

らいにしましょう。また殺菌剤入りの石鹸で毎日洗っていてかゆみが止まらない、というケースもありました。殺菌剤入りの石鹸は、手を洗う時も含めて普通の生活では必要ありません。そのほか、性感染症のひとつである毛虱もかゆくなります。下着やオムツなどの素材が肌に合わなくてかゆくなることもあります。

「痛いとき」。最初に考えるのは、帯状疱疹や単純ヘルペスによるものです。その他、粉瘤や癬と呼ばれるおできの類。さらに、掻きすぎて傷がついた時や拭き過ぎ、などがあります。下痢や軟便が続いて肛門周囲の皮膚がただれて痛いことも(時にかゆいことも)あります。部位によっては床ずれ(褥瘡)のこともあります。もし、痛くないのにジクジクしている、ただれている、出血している時は、なるべく早く受診して下さい。

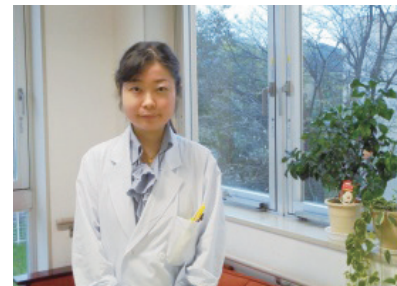
陰部の皮膚は、薄くて敏感です。ちょっとしたことでいろいろなトラブルが出てきます。心配な時は恥ずかしがらず、まずは皮膚科にお越し下さい。

## 新任医師紹介

安原 朋子(内科医師)

11月1日から、ベトレヘムの園病院に勤務いたしました。学生の頃から、終末期医療に携わりたいと思っていましたので、自然豊かな穏やかな雰囲気の療養型病院で働けることに、感謝と喜びを感じずにはいられません。人生で避けることのできない病や死は苦しみを伴うものですが、最期までその人らしく生きられるように手助けする医療は医学の一つの大切なテーマだと思います。13年前の春に、巡礼地ルルドに卒業旅行として訪れました。信仰の違いを超えて聖母マリアの前で癒しを祈る人々の姿に心打たれました。そして難病の方々も現地のボランティアの方たちもお会いする方々が笑顔であり、ケアの精神が受ける人と与える人の心も暖かく照らしていることを実感しました。その後初期・後期研修では高齢者医療を、4年目からは神経内科や総合内科を学びました。昨年の4月から当院

の当直をさせていただき今日にいたります。スタッフの方々の丁寧なお心遣いや、献身的な医療行為に触れて、私自身を省みて少しでも成長したいと願うようになりました。まだ知識も技術も少なく未熟な者ですが、皆様が伝えて下さった、慈しみの心を大切に少しずつ学び身に着けたいと思います。色々ご迷惑をおかけすると存じますが、御教示いただけましたら幸いです。これからどうぞよろしくお願い致します。



## お知らせ

### 公開健康講座

平成29年11月28日(火) 14:00～ 当院2階会議室

### 『体験してみよう

おしりにフィット紙パンツでワクワク外出』

講師：大王製紙、窪田看護部長、草野・中川西CW

### ベタニアの家 チャリティーコンサート

平成29年12月13日(水) 開演:18:00(開場17:30)

“HAPPY JAZZ TIME

鈴木直樹&スウィングエース”

練馬文化センター 小ホール

全席自由 ¥ 3,000

### 2017年クリスマス会

平成29年12月19日(火)

ミサ/14:00～

キャンドルサービス/16:20～



## ホームページ

### リニューアルのお知らせ

今回、ホームページをリニューアル致しました。ブログページもあり、今まで以上にタイムリーな情報を提供して行きたいと思っております。是非、閲覧して御意見などありましたらお寄せ下さい。

URL:<https://www.betohp.net>



QRコードをモバイルから読み込んでアクセスも出来ます



## 編集後記

最近切実に思う事があって、年齢が増すと、今日は調子がいいと思っても次の日には不調だったり、日々体調の変化があり、去年はこんなはずじゃなかったと一年一年の変化を感じています。だんだん、機械の部品が壊れたり、故障したりするように自分の身体もボンコツになって来ている様な気がします。トホホ・・・やはり、メンテナンスが必要なのだ日々実感していて、メディアの情報に翻弄されている日々です。そんなこんなを繰り返しながら、また来年がやってくるのかなあ・・・。体の部品も交換出来たらいいのに!!(切実)。(M・K)